

株主の皆様へ

第78期 報告書

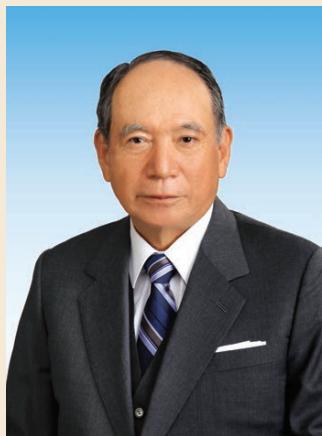
〈2025年1月1日～2025年12月31日〉



山崎製パン株式会社

証券コード 2212

株主の皆様へ



目次

株主の皆様へ	1
経営基本方針、 21世紀のヤマザキの経営方針	2
事業の概要	3
セグメント別の状況	5
当社グループの店舗網	12
製品情報	13
社会貢献への取り組み	15
財務諸表（連結）	17
財務諸表（単体）	19
YAMAZAKIインフォメーション	20
株式の状況、役員・従業員	21
グループ概要	22
株主メモ	裏表紙

株主の皆様には、平素より格別のご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社グループ第78期事業年度（2025年1月1日から2025年12月31日まで）の報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当期を振り返りますと、物価上昇が続き、お客様の節約志向や低価格志向が一段と強まる中で、鶏卵などの原材料価格の上昇や人件費の上昇もあり厳しい経営環境となりましたが、当社は「いのちの道」の教えに従い、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始する営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進し、新規技術を活用した品質向上に取り組むとともに、2極化・3極化戦略により、変化するお客様のニーズに対応した隙のない製品開発を推進し、新しい価値の創造に取り組んでまいりました。

前期に新規技術を導入して大幅な品質改善を実現した「ダブルソフト」の技術を最大限活用し、主力食パンの「ロイヤルブレッド」をはじめ、チェーンオリジナル対応を含む低価格食パンや、菓子パン、和菓子、洋菓子などに幅広く活用してまいりました。さらに、昨年11月、新規技術を一步前進させた新たな技術を「ダブルソフト」に活用してリニューアル発売したところ、お客様の手応えを得ることができました。次期はこの技術を各部門で活用し、品質向上に積極的に取り組んでまいります。

また、安全日誌を活用しチョコ停・トラブル、ヒヤリハット等の情報を日次・週次・月次で管理し改善を進める従業員による労働安全衛生管理体制と、機械設備のリスクアセスメントによるリスクの排除・低減に加え、日々の安全パトロールや安全教育を行う管理職による労働安全衛生管理体制を連動させる、2本立ての労働安全衛生管理体制の整備・充実強化をはかり、業績向上対策とともに働く職場の安全安心の実現に取り組みました。

通期の業績は、パン類を中心に新規技術を活用して品質向上をはかったことに加え、昨年1月に実施した価格改定の寄与もあり、山崎製パン(株)単体の業績が好調に推移するとともに、連結子会社の業績も好調に推移し、3期連続で過去最高の売上と利益を更新することができました。

当期の期末配当につきましては、当期の業績と今後の経営環境等を勘案し、株主の皆様への安定した配当を継続するため、1株につき前期に比べ15円増配し、60円とさせていただきます。

当社グループは、引き続き「いのちの道」の教えに従い、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始する営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進し、新たな技術を活用した品質向上に取り組むとともに、2極化・3極化戦略によって変化するお客様のニーズに対応した隙のない製品開発を推進し、新しい価値の創造に取り組んでまいります。また、2本立ての労働安全衛生管理体制の整備・充実強化をして働く職場の安全安心の実現にも取り組み、21世紀のヤマザキの前進に向け、グループ一丸となって努力してまいりますので、株主の皆様におかれましては、なお一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2026年3月

代表取締役社長 **飯島延浩**

経営基本方針

綱領

(1) わが社は、企業経営を通じて社会の進展と文化の向上に寄与することを使命とし、個人の尊厳と自由平等の原理に基づき、いのちの道の教えの言葉に従い、困難に屈することのない勇氣と忍耐とによって、神のみこころにかなう永続する事業の実現を期すこと。

具体方針

21世紀のヤマザキは、新しいヤマザキの精神と新しいヤマザキの使命に導かれて、いのちの道の教えの言葉に従い、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始する「部門別製品施策・営業戦略」、「小委員会によるなぜなぜ改善」を行ない、次の六つの具体方針の実践、実行、実証に邁進する。

- ① 最高の品質と最善のサービス(今日到達しうるベストオリティー・ベストサービスの実践、実行、実証)を目標とし、品質は今到達しうる最高のものであり、新鮮であること。それは製品、組織、仕事、工場、財産並びに設備のなかに表わさるべきこと。
- ② 充実した効率のよい積極的な組織体を作りあげ、そして維持拡充していくため、あらゆる可能の努力を注ぐこと。その組織体の人々は、会社を信頼し、仕事が喜びであり、普通ではできない仕事を完遂することが個人的な願望にまできていること。

(2) われわれは、常に良きものへ向って絶えず進歩しつづけるため、各人が自由な決心に基づき、正しき道につき、断固として実行し、自主独立の協力体制を作り、もって使命達成に邁進すること。

- ③ 入手できる限りの、事業に独特な要求に適合した最善の設備と施設を備えること。
この設備や施設の調達は、維持運営が経済的であることと会社の組織に最も仕事をしやすい道具を与えるという二つの観点から考えられること。
- ④ 産業界と一般社会との間に協力関係を創り出し、維持していくため、実行可能な一切のことを行なっていくこと。
- ⑤ 業務の遂行に関するすべての決定を行なうにあたって、常にその一件を処理する上での便宜よりも、事業全体にとって何が正しいか、何が最善であるかを中心に考えること。
- ⑥ 顧客に接するときは、常に公明正大で、かつ相手が何を欲しているかを十分に考慮すること。
配達や品質やサービスについては、その成果が最優秀なものになるように努力すること。

21世紀のヤマザキの経営方針

当社は、21世紀の事業環境と社会の変化に対応するため、「企業経営を通じて社会の進展と文化の向上に寄与することを使命とし、自主独立の協力体制を作り、もって使命達成に邁進する」という顧客本位の精神で、潜在需要に着目しイノベーション(技術革新)によって需要を創造するという、前向き積極的なピーター・ドラッカー博士の経営理論に導かれる山崎製パン株式会社の「経営基本方針(綱領および具体方針)」を改めて高く掲げると同時に、これを補完するものとして、「日々、お取引先からご注文いただいた品は、どんな試練や困難に出会うことがあっても、良品廉価・顧客本位の精神でその品を製造し、お取引先を通してお客様に提供する」という、新しいヤマザキの精神に導かれ、科学的根拠の上立った食品安全衛生管理体制の上に築き上げる科学的・合理的・効率的な事業経営手法として、いのちの道の教えに従ったすべての仕事を種蒔きの仕事から開始する部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を実践、実行、実証することで、新しい価値と新しい需

要を創造し、社会の負託に応え社業を前進させることを21世紀のヤマザキの経営方針といたします。

事業経営の具体的遂行に当たっては、経営陣、管理職は、本物の5S・全員参加の5Sとピーター・ドラッカー博士の5つの質問を連動させる「2本立ての5S」を行うとともに、いのちの道の教えに従った部門別製品施策・営業戦略をピーター・ドラッカー博士の5つの質問と連動させ、「私たちの使命は何ですか」(What is our mission?)と問うだけでなく「私の使命は何ですか」(What is my mission?)と問い、生産部門・営業部門一体となった業務を推進するとともに、内部管理体制を充実・強化して、各部門毎の自主独立の協力体制を構築いたします。また、「良品廉価・顧客本位の精神で品質と製品、サービスをもって世に問う」というヤマザキの精神と「知恵と知識によって変化に挑戦し、新しい価値と新しい需要を創造する」といういのちの道を導く言葉によって日々の仕事の実践、実行、実証に励み、業績の着実な向上を期してまいります。



事業の概要

当期における連結業績の概況

売上高 **1兆3,114億30百万円** (対前期比 105.4%)

営業利益 **611億41百万円** (対前期比 117.9%)

経常利益 **643億14百万円** (対前期比 114.2%)

親会社株主に帰属する
当期純利益 **408億93百万円** (対前期比 113.5%)

当期の事業の概況

当期におけるわが国の一般経済環境は、所得環境の改善が進み、個人消費に持ち直しの動きがみられるとともに、堅調なインバウンド需要に支えられ、景気は緩やかな回復基調で推移しました。

当業界におきましては、物価上昇に賃金の伸びが追い付かずに消費マインドが低迷し、お客様の節約志向や低価格志向が続くとともに、鳥インフルエンザの影響による鶏卵の高騰に加え、油脂、包材等の原材料価格の上昇や人件費、物流費等の上昇もあり、厳しい経営環境となりました。また、コンビニエンスストアやフレッシュベーカーリーの小売事業につきましては、インバウンドの増加もあり売上回復が続きましたものの、人件費等のコスト上昇もあり、厳しい経営環境となりました。

このような情勢下にあります、当社グループは、「いのちの道」の教えに従い、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始

する営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進し、主力製品の品質向上をはかるとともに、2極化・3極化戦略によって低価格製品を充実する一方で、女性製品開発担当者を中心に付加価値を付けた製品開発に取り組むなど、変化するお客様のニーズに対応した隙のない製品開発を推進しました。前期、新規技術を導入して大幅な品質改善を実現しお客様の支持を得た「ダブルソフト」の技術を最大限活用し、1月から主力の「ロイヤルブレッド」に導入して業績向上への推進力とするとともに、この技術を菓子パン、和菓子、洋菓子にも活用し、品質訴求による売上拡大をはかりました。また、1月1日出荷分から実施した、一部の食パン、菓子パン、和菓子、洋菓子製品の価格改定につきましては、対象製品の品質向上や規格の充実に加え、下支え製品の充実などお客様のニーズに丁寧に対応するとともに、「春のパンまつり」等のキャンペーンを活用し販売数量の拡大をはかりました。

また、当社は、労働安全衛生管理体制の充実強化を推進し、労働安全衛生推進基本会議を毎月開催して経営陣、本社各部・各工場が一体となって、夏場の従業員の熱中症対策を含む労働安全衛生に関する問題課題の解決に取り組みました。安全日誌を活用して従業員によるチョココ・トラブル、ヒヤリハット等の情報を日次・週次・月次で管理し改善を進めるとともに、本社各部・各工場における機械設備のリスクアセスメントによるリスクの排除・低減に加え、管理・監督職が責任をもって日々の安全パトロールや安全教育を実施する、2本立ての労働安全衛生管理体制の整備・充実強化をはかり、業績向上対策とともに働く職場の安全安心の実現に取り組





みました。

デイリーヤマザキやフレッシュベーカーリーの小売事業につきましては、小売事業業績改善プロジェクトにおいて、日次管理・週次管理・時間管理の経営手法により、問題課題を正確に把握して原因を追究し対応策を推進するなど、日々の仕事の精度向上をはかりました。また、小売事業本部内の戦略製品・戦略商品開発推進チームと連携し、新規技術により品質向上をはかった冷凍生地を活用し女性製品開発担当者の感性を活かした競争力のある商品開発を推進するなど、業績向上をはかりました。

当期の連結業績につきましては、パン類を中心に新規技術を活用して品質向上をはかったこともあり、山崎製パン(株)単体の業績が好調に推移したことに加え、連結子会社の業績も好調に推移し、増収増益を達成しました。

次期の見通し

今後の見通しといたしましては、わが国経済は、所得環境の改善が進み、個人消費が持ち直しに向かうなど、景気は緩やかに回復していくことが期待されますが、当業界におきましては、継続する物価上昇によりお客様の生活防衛意識が一段と強まり、節約志向や低価格志向が続くとともに、鶏卵や油脂、包材の高止まりなど原材料価格の上昇に加え、人件費等の上昇が予測され、厳しい経営環境になるものと思われま。また、小売事業につきましても、人件費等のコスト上昇もあり、厳しい経営環境になるものと思われま。

このような状況下でありまして、当社グループは、引き続き「いのちの道」の教えに従い、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始する営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進し、新たな技術を活用した品質向上に取り組むとともに、2極化・3極化戦略によって変化するお客様のニーズに対応した隙のない製品開発を推進し、新しい価値の創造に取り組んでまいります。また、2本立ての労働安全衛生管理体制の整備・充実強化をして働く職場の安全安心の実現にも取り組み、着実な業績向上をはかってまいります。

また、デイリーヤマザキやフレッシュベーカーリーの小売事業につきましては、小売事業業績改善プロジェクトにおいて、日次管理・週次管理・時間管理の経営手法を徹底し、日々の仕事の精度向上をはかるとともに、小売事業本部内の戦略製品・戦略商品開発推進チームと連携した競争力のある商品開発を推進し、業績向上をめざしてまいります。

【セグメント別の状況は5頁から11頁のとおりです。】

次期の連結業績見通し

売上高	1兆3,380億円	(対前期比102.0%)
営業利益	640億円	(対前期比104.7%)
経常利益	670億円	(対前期比104.2%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	425億円	(対前期比103.9%)





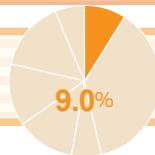
セグメント別の状況

食品事業

売上高 **1兆2,159億40百万円** (対前期比 105.4%)



食パン部門 売上高 **1,182億87百万円** (対前期比 103.7%)



食パンは、1月に新規技術により品質向上をはかった主力の「ロイヤルブレッド」が伸長するとともに、この技術を活用したチェーンオリジナル対応を含む低価格製品やサンドイッチ用食パンが好調に推移しました。さらに、「ダブルソフト」に新たな技術を活用して品質向上をはかり、11月からリニューアル発売して売上拡大をはかったこともあり、前期の売上を上回りました。

次期は、11月に「ダブルソフト」に導入した新しい品質改善技術を、2026年1月から主力の「ロイヤルブレッド」に活用し、品質訴求や売り場づくりの推進により更なる取扱店数の拡大をはかるとともに、この技

術を「モーニングスター」などの低価格製品やサンドイッチ用食パンにも活用してまいります。また、「ダブルソフト」については3枚入り、2枚入りに加え、健康志向製品の「ダブルソフト 全粒粉入り」と併せた売り場づくりを推進し、売上拡大をはかってまいります。

◆◆◆◆◆ 食パンの3大ブランド ◆◆◆◆◆



ロイヤルブレッド



ダブルソフト



超芳醇



モーニングスター



スイートブレッド



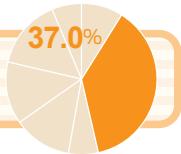
レーズンゴールド



ダブルソフト
全粒粉入り



減塩食パン超芳醇
(塩分50%カット)



菓子パン部門 売上高4,846億74百万円 (対前期比 104.3%)

菓子パンは、「まるごとソーセージ」やランチパック、「アップルパイ」等の主力菓子パンが伸長するとともに、ヤマザキ菓子パンやペストリーの「ずっしり」シリーズ、「ドーナツステーション」等の低価格製品が伸長しました。さらに、ヤマザキの技術を積極的に活用した(株)YKベーキングカンパニーの売上が好調に推移し、前期の売上を大きく上回りました。

次期は、コッペパンや「ミニスナックゴールド」な

ど主力製品において、新しい技術による品質向上をはかるとともに、2極化・3極化に対応した製品開発を推進してまいります。また、ランチパックについて新しい技術により食材食パンの品質向上をはかり、価格帯別のラインアップの充実をはかるとともに、薄皮シリーズについては生地品質向上や具材感の向上により売上回復をはかってまいります。



まるごとソーセージ



アップルパイ



ずっしりデニッシュ



コッペパン
ジャム&マーガリン



ミニスナックゴールド



薄皮つぶあんぱん



ランチパック



あんぱん
(ヤマザキ菓子パン)



オールドファッションドーナツ
(ドーナツステーション)



ハムマヨ
(株)YKベーキングカンパニー



セグメント別の状況

和菓子部門 売上高813億33百万円 (対前期比 106.1%)

6.2%

和菓子は、串団子や大福、饅頭が好調に推移するとともに、新規技術により品質向上をはかったホットケーキや「やまざき蒸しパン」、中華まんが好調に推移しました。さらに、チルド製品の「雪どら」シリーズが売上に寄与し、前期の売上を上回りました。

次期は、新規製法の餡を活用し、品質訴求により串

団子や大福、饅頭の取扱店数の拡大をはかってまいります。また、蒸しパンの主力製品「北海道チーズ蒸しケーキ」に新しい技術を活用して品質向上をはかるとともに、チルド和菓子や2極化・3極化に対応した製品開発を推進し、売上拡大をはかってまいります。



黒糖まん



吹雪まん



苺大福



酒まんじゅう



北海道チーズ蒸しケーキ



串だんご



蓬まんじゅう



熟成マーラーカオ
(やまざき蒸しパン)



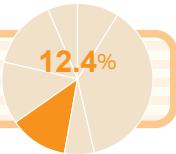
ふわもち食感のパンケーキ



具たっぷり肉まん



春どら



洋菓子部門 売上高1,632億9百万円 (対前期比 103.8%)

洋菓子は、主力の2個入り生ケーキが堅調に推移するとともに、「イチゴスペシャル」や「ダブルロール」、「ふんわりワッフル」など新規技術により品質向上をはかった製品が伸長しました。さらに、コンビニエンスストア向け製品が好調に推移し、前期の売上を上回りました。

次期は、主力の2個入り生ケーキの新規技術による

品質向上に加え、プレミアムスイーツや「イチゴスペシャル」、「ダブルロール」の取扱店数の拡大をはかってまいります。引き続き新規技術の活用による生地の品質改善やクリーム風味向上に取り組むとともに、コンビニエンスストア向け製品についてチェーン毎に隙のない価格対応を強化し、売上拡大をはかってまいります。



莓のショートケーキ



モンブラン



イチゴスペシャル



ダブルロール



5つに切ったロールケーキ

プレミアムスイーツ



ふんわりワッフル

生クリームロール

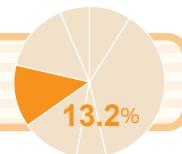


大きなツインシュー



セグメント別の状況

調理パン・米飯類部門 売上高**1,731億79百万円** (対前期比 109.6%)



調理パン・米飯類は、おにぎりやサンドイッチが伸長するとともに、(株)サンデリカにおいて主要取引先であるコンビニエンスストアチェーンとの取引が増加したことに加え、大徳食品(株)においてヤマザキの技術により麺の品質向上をはかった調理麺が好調に推移し、前期の売上を上回りました。

次期は、新しい技術を活用した食材食パンによるサンドイッチの開発やおにぎりの品揃えの強化をはかるとともに、コンビニエンスストアチェーンや量販店向けの製品開発を推進し、売上拡大をはかってまいります。



手巻おにぎり
シーチキンマヨネーズ



手巻おにぎり
紅鮭



鶏五目おにぎり



赤飯おこわ



こだわりソースの焼きそばパン



とろ〜りとした
チーズのハンバーガー



若鶏の唐揚げ弁当



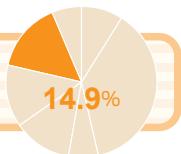
ひとくちサンド



大きなサンド
野菜サンド



きつねうどん



製菓・米菓・その他商品類部門 売上高1,952億56百万円 (対前期比 106.9%)

製菓・米菓・その他商品類は、㈱不二家の「カントリーマアム」や「ホームパイ」が大きく伸長するとともに、ヤマザキビスケット㈱の「チップスター」や㈱東八トの「キャラメルコーン」等のスナック製品が伸

長したこともあり、前期の売上を上回りました。

次期は、グループ各社の特徴ある製品群を活用した部門別のブランド戦略を推進し売上拡大をはかってまいります。



ミルキー



カントリーマアム



ホームパイ



プレミアムルック



チップスター



ノアール



ポテコ



あみじゃが



ルヴァンクラッカープライム



キャラメルコーン



ハーベスト

流通事業

売上高 **797億90百万円** (対前期比 104.7%)



デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につきましては、「いのちの道」の教えに従い、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始し、運営・商品が一体となって、お客様のニーズに合ったオリジナル商品の開発に取り組むとともに、戦略製品・戦略商品開発推進チームと連携した競争力のある商品開発や新規技術による冷凍生地を活用したデイリーホットの品質向上をはかり、お客様に喜ばれるヤマザキ独自のコンビニエンスストアチェーンをめざしました。また、松戸・杉並ドミナントプロジェクトにおける成功事例を活用し、デイリーホットを中心に収益改善をはかるとともに、各工場と連携した売り場づくりや店舗改装によるヤマザキらしい店づくりに取り組むなど、1店1店の収益改善をはかりました。

以上の結果、当期は、チェーン全店売上高、営業総

収入が直営店の売上増もあり前期を上回るとともに、値入率の管理が進み利益も改善してまいりました。

次期は、「いのちの道」の教えに従い、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始し、運営・商品が一体となって、オリジナル商品の開発に取り組むとともに、戦略製品・戦略商品開発推進チームと連携してヤマザキの技術を最大限活用した競争力のある商品開発を推進してまいります。また、松戸・杉並ドミナントプロジェクトの取組みを大阪ドミナントに拡大し、大阪エリアの工場と連携してデイリーホットを中心に収益改善に取り組むとともに、既存店の改装によるデイリーホットを中心としたヤマザキらしい店づくりを推進して1店1店の売上向上と収益改善をはかり、業績回復をめざしてまいります。



デイリーヤマザキ
当期末の店舗数

1,251店

(前期末差 39店減)

●デイリーヤマザキ
998店

(前期末差 6店減)

●ニューヤマザキデイリーストア
244店

(前期末差 33店減)

●ヤマザキデイリーストア
9店

(前期末差 増減なし)

当社グループの店舗網

デイリーヤマザキ (コンビニエンスストア)



神奈川：川崎マリエン店 (2025年6月オープン)

ヤマザキショップ (地域密着型小売店)



東京：昭島病院店 (2025年8月オープン)

不二家 (洋菓子店)



東京：FUJIYA CONFECTIONERY 北千住マルイ店
(2025年1月オープン)

ヴィ・ド・フランス (ベーカリーカフェ)



東京：羽田空港店 (2025年4月オープン)



『ロイヤルシリーズ』が新しくなりました



本年1月から、ロイヤルシリーズの製品をリニューアルしました。
『ロイヤルブレッド』は、良質な上級小麦粉とバターを使用し、小麦本来の味と香りを活かして焼きあげた食パンで、バターの風味とコクのあるしっとりした食感が特長です。当社のトップブランド食パンで、2012年の発売以来、多くのお客様からご好評をいただいております。

今回、新しい技術の活用と発酵種ルヴァンの改良により、バター風味の向上とともに、そのまま“生”で食べた時のしっとりソフトな食感と、トーストした時のサクリ感や歯切れの良さがさらに高まりました。

4枚スライスから10枚スライスまで幅広くラインアップしており、そのまま“生”のおいしさをサンドイッチで、サクッと歯切れのよい食感をトーストで、お好みに合わせてお選びいただけます。

『ロイヤルブレッド』を使ったレシピ シュガートースト

材料(1人分)

- ロイヤルブレッド5枚切
..... 1枚
- バター 大さじ1
- グラニュー糖 ... 大さじ1

作り方

- ① バターとグラニュー糖を混ぜます。
- ② パンに切れ目を入れて、①をたっぷり塗ります。
- ③ あらかじめ温めたトースターに②を入れて、きつね色になるまで焼きます。



ひとくちメモ

グラニュー糖のかわりに、ブラウンシュガーで作ると砂糖の素朴な味わいが引き立ちます。



小麦本来の味と香りを活かして焼きあげた、バターの風味とコクのあるしっとりとした食感のバターロールです。リニューアルにより、バター風味が向上しました。

バターの風味とコクのあるクロワッサンです。リニューアルにより、よりしっとりとした口どけの良い生地になるとともに、バター風味が向上しました。





定番のおいしさ『北海道チーズ蒸しケーキ』

『北海道チーズ蒸しケーキ』は、1999年の発売以来、25年以上にわたりお客様に愛され続けているロングセラー製品です。

北海道産チェダーチーズ入りのチーズクリームを贅沢に使用して香り豊かに仕上げています。しっとりやわらかい生地で、口の中ではふわっとやさしいチーズの香りが広がります。北海道をモチーフにしたマークと表面のこんがりきれいな焼き色が特徴です。



これまで、食感や風味などのトレンドの分析により、チーズの量や種類、使用するチーズの比率、卵の量などを改良し、リニューアルを重ねてきました。

本年1月からは、新規技術を導入することで、ふんわりしっとりとした食感や口どけの良さがより一層向上しました。

このおいしさをカステラなどにアレンジした製品も発売しています。

新しいおいしさ『チルドどら焼き』シリーズ

「チルドどら焼き」シリーズは、新規技術を活用したふわもち食感のどら焼き皮で大福や桜餅などをまるごと1個、クリームと一緒にサンドした、ずっしりとした食べごたえのある製品で、和洋折衷の味わいが楽しめます。

季節に合わせた製品をラインアップしており、お客様からご好評をいただいております。



※今後、製品パッケージが変更される場合がございます。



公益財団法人飯島藤十郎記念食品科学振興財団(学術文化活動)

食品科学振興のための研究助成活動を支援しています

当社は、社会貢献への取組みの一環として、わが国の食品科学における総合研究の進展のために、公益財団法人飯島藤十郎記念食品科学振興財団を通じて、米麦等主要食糧に関する食品科学、食品の加工技術、食品と健康、安全性等の分野を中心に、研究者への助成活動を支援しております。また、2026年度より、食品科学等の分野の日本人大学院生に対する奨学金事業を開始します。

飯島藤十郎記念食品科学振興財団は、当社創業者の故飯島藤十郎社主が主たる基本財産を出捐し、当社と共同で1984年に設立され、農林水産省所管の財団法人として着実な活動を積み重ねた後、2013年4月に公益財団法人に移行しました。



2024年度学術研究助成金贈呈式、飯島藤十郎賞授与式・特定課題研究等助成金贈呈式での飯島幹雄理事長と、飯島藤十郎食品科学賞を受賞された東京大学大学院内田浩二特任教授

学術研究助成事業等

当財団の設立から今日までの42年間に実施した助成・表彰事業の総件数は3,100件を超え、助成額では総額59億2,400万円に達しております。

食品科学分野に係わる学術研究助成では、全国の大学および公的研究機関等の個人研究、共同研究を対象に1,914件、38億6,735万円の助成を行いました。

また、学術研究国際交流援助では、研究者の海外派遣援助、国際学術会議等開催援助および外国人留学生研究助成として、385件、2億6,682万円の助成を行いました。

飯島藤十郎食品科学賞・食品技術賞

当財団では食品科学の学術研究および食品加工等の技術開発に優れた業績をあげた研究者、研究グループを表彰し研究奨励金を贈呈する、飯島藤十郎賞（「飯島藤十郎食品科学賞」および「飯島藤十郎食品技術賞」）を設けております。

これまでに、食品科学賞は30件、食品技術賞は32件、合わせて62件、研究奨励金の総額は2億200万円となっております。



飯島藤十郎食品科学賞賞牌



学術講演会の開催

当財団の事業活動の一環として、学術研究助成の研究
成果発表や、飯島藤十郎賞受賞者の特別講演からなる
学術講演会を毎年開催しています。2016年度からは山
崎製パン総合クリエイションセンターの飯島藤十郎社主
記念LLCホールで開催しています。

また、研究成果をとりまとめた報告書を財団年報と
して発行し、学術研究成果の紹介と食品科学の知識の
普及につとめております。



2024年度学術講演会

奨学金事業の開始

当財団は、未来の食品科学を担う大学院生を応援す
るため、奨学金事業を開始します。毎年度、食品科学
を専攻する学生30人程度を募集し、返済不要の年間
276万円の奨学金を支給するほか研究発表会等の交流
行事を行います。この事業を通じそれぞれの夢を実現、
社会に貢献されることを期待しています。

[2027年4月支給開始]

●第36回学術講演会テーマ（敬称略）

個人研究

■演題 「持続的かつ非侵襲的な方法で貯蔵穀物を
害虫から守る」

座長 一色 賢司（一財）日本食品分析センター学術顧問
（北海道大学名誉教授）

講演者 木下 奈都子 筑波大学 生命環境系 助教

共同研究

■演題 「放射光を用いた米の新規食感分析手法の
開発と食品への適用」

座長 神山 かおる 農研機構 食品研究部門

講演者 日高 将文 東北大学大学院 農学研究科 助教
（代表研究者 原田 昌彦 東北大学大学院 農学研究科 教授）

大型特定研究

■演題 「腸管上皮による食物成分の認識と腸管バ
リア制御に関する研究」

座長 大澤 俊彦 人間総合科学大学 客員教授（名古屋大学名誉教授）

講演者 鈴木 卓弥 広島大学大学院 統合生命科学研究所 教授

特別講演

【飯島藤十郎食品技術賞受賞研究】

■演題 「「国産小麦の製パンへの利用に関する手引
書」の作成」

座長 岩元 睦夫 元農林水産省農林水産技術会議 事務局長

講演者 井上 好文（一社）日本パン技術研究所 所長

【飯島藤十郎食品科学賞受賞研究】

■演題 「食と健康に関連した生命現象の化学反応
の解析と応用」

座長 清水 誠 東京農業大学 客員教授（東京大学名誉教授）

講演者 内田 浩二 東京大学大学院 農学生命科学研究科 特任教授



財務諸表（連結）

貸借対照表のポイント

流動資産

現金及び預金が増収に加え新規借入もあり113億77百万円増加し、売掛金も増収により88億41百万円増加したこと等により、流動資産は合計で240億66百万円増加し、3,654億70百万円となりました。

有形・無形固定資産

有形固定資産が、生産能力増強や品質の安定向上に加え、労働安全衛生管理等を目的とした生産設備の更新を実施したこと等により129億67百万円増加し、有形・無形固定資産は合計で3,896億77百万円となりました。当期の設備投資額は、599億42百万円、減価償却実施額は436億44百万円であります。

投資その他の資産

投資その他の資産は、所有株式の株価上昇により投資有価証券が91億87百万円増加し、退職給付に係る資産が年金資産の運用改善もあり206億37百万円増加したこと等により308億23百万円増加し、1,767億30百万円となりました。

負債合計

負債合計は、増収に伴う支払債務の増加や新規借入等により164億32百万円増加し、4,210億50百万円となりました。

純資産合計

純資産合計は、自己株式取得等による36億64百万円の減少はありましたが、利益剰余金が319億43百万円、退職給付に係る調整累計額が121億24百万円それぞれ増加したこともあり、503億41百万円増加し、5,108億28百万円となりました。

損益計算書のポイント

売上高

パン類を中心に新規技術を活用して品質向上をはかったこともあり、当社単体の業績が好調に推移したことに加え、連結子会社の業績も好調に推移し、前期に比べ5.4%の増収となりました。

営業利益

原材料価格の上昇や人件費、物流費等の増加はありましたが、増収により吸収し、前期に比べ17.9%の増益となりました。

経常利益

前期に比べ14.2%の増益で、売上高経常利益率は4.9%となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益

増収等により、前期に比べ13.5%の増益となりました。

連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

科目	当期末	前期末	増減
	2025年12月31日現在	2024年12月31日現在	
資産の部			
流動資産	365,470	341,404	24,066
固定資産	566,407	523,701	42,706
有形固定資産	371,564	358,597	12,967
無形固定資産	18,112	19,197	△1,084
投資その他の資産	176,730	145,906	30,823
資産合計	931,878	865,105	66,773
負債の部			
流動負債	274,156	269,953	4,203
固定負債	146,893	134,664	12,229
負債合計	421,050	404,618	16,432
純資産の部			
株主資本	371,761	343,422	28,338
資本金	11,014	11,014	—
資本剰余金	9,691	9,632	59
利益剰余金	406,573	374,629	31,943
自己株式	△55,517	△51,852	△3,664
その他の包括利益累計額	88,119	68,727	19,391
非支配株主持分	50,947	48,336	2,610
純資産合計	510,828	460,486	50,341
負債純資産合計	931,878	865,105	66,773

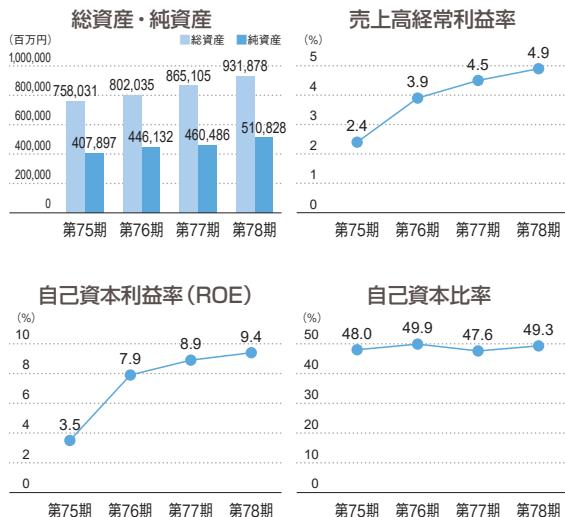
(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

科目	当期	前期	増減
	2025年1月1日から 2025年12月31日まで	2024年1月1日から 2024年12月31日まで	
売上高	1,311,430	1,244,488	66,942
売上原価	883,025	839,233	43,792
売上総利益	428,404	405,255	23,149
販売費及び一般管理費	367,263	353,381	13,881
営業利益	61,141	51,873	9,267
営業外収益	5,691	6,099	△407
営業外費用	2,518	1,668	850
経常利益	64,314	56,305	8,009
特別利益	1,495	2,406	△910
特別損失	4,241	3,075	1,165
税金等調整前当期純利益	61,569	55,636	5,933
法人税等合計	18,111	17,502	608
当期純利益	43,458	38,133	5,325
非支配株主に帰属する当期純利益	2,565	2,117	447
親会社株主に帰属する当期純利益	40,893	36,015	4,877

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。



連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期	前期	増減
	2025年1月1日から 2025年12月31日まで	2024年1月1日から 2024年12月31日まで	
営業活動によるキャッシュ・フロー	78,870	73,974	4,895
投資活動によるキャッシュ・フロー	△55,859	△43,492	△12,367
財務活動によるキャッシュ・フロー	△14,126	△15,038	911
現金及び現金同等物に係る換算差額	600	308	291
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	9,484	15,753	△6,268
現金及び現金同等物の期首残高	145,939	129,582	16,357
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	604	△604
現金及び現金同等物の期末残高	155,423	145,939	9,484

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書 (2025年1月1日から2025年12月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本				その他の包括利益累計額							非支配株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	11,014	9,632	374,629	△51,852	343,422	35,534	2	99	5,425	27,665	68,727	48,336	460,486
当期変動額													
剰余金の配当			△8,949		△8,949								△8,949
親会社株主に帰属する当期純利益			40,893		40,893								40,893
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		59			59								59
自己株式の取得				△3,664	△3,664								△3,664
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						6,022	△0	△10	1,256	12,124	19,391	2,610	22,002
当期変動額合計	—	59	31,943	△3,664	28,338	6,022	△0	△10	1,256	12,124	19,391	2,610	50,341
当期末残高	11,014	9,691	406,573	△55,517	371,761	41,557	1	88	6,681	39,789	88,119	50,947	510,828

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

財務諸表（単体）

貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

科目	当期末	前期末	増減
	2025年12月31日現在	2024年12月31日現在	
資産の部			
流動資産	181,851	179,909	1,941
固定資産	416,155	407,313	8,842
有形固定資産	212,266	208,598	3,668
無形固定資産	7,695	7,406	288
投資その他の資産	196,194	191,309	4,885
資産合計	598,007	587,223	10,784
負債の部			
流動負債	163,805	163,096	708
固定負債	89,941	102,954	△13,012
負債合計	253,747	266,051	△12,303
純資産の部			
株主資本	304,049	286,610	17,438
資本金	11,014	11,014	-
資本剰余金	9,676	9,676	-
利益剰余金	338,876	317,773	21,103
自己株式	△55,517	△51,852	△3,664
評価・換算差額等	40,210	34,561	5,649
純資産合計	344,259	321,172	23,087
負債純資産合計	598,007	587,223	10,784

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

科目	当期	前期	増減
	2025年1月1日から2025年12月31日まで	2024年1月1日から2024年12月31日まで	
売上高	891,198	857,028	34,170
売上原価	599,913	577,371	22,542
売上総利益	291,285	279,657	11,628
販売費及び一般管理費	254,023	245,102	8,921
営業利益	37,261	34,554	2,707
営業外収益	6,287	6,542	△254
営業外費用	1,341	967	374
経常利益	42,206	40,129	2,077
特別利益	1,845	3,572	△1,727
特別損失	1,998	1,735	263
税引前当期純利益	42,053	41,966	86
法人税、住民税及び事業税	11,030	11,527	△497
法人税等調整額	971	985	△14
法人税等合計	12,001	12,512	△511
当期純利益	30,052	29,454	598

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書（2025年1月1日から2025年12月31日まで）

(単位：百万円)

	株主資本										評価・換算差額等	純資産計			
	資本金	資本剰余金			利益剰余金	その他利益剰余金							自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		配当準備積立金	退職給与積立金	圧縮記帳積立金	別途積立金	繰越利益剰余金					
当期首残高	11,014	9,664	12	9,676	2,753	6	500	603	283,580	30,330	317,773	△51,852	286,610	34,561	321,172
当期変動額															
剰余金の配当										△8,949	△8,949		△8,949		△8,949
圧縮記帳積立金の取崩								△2		2	-		-		-
別途積立金の積立									20,500	△20,500	-		-		-
当期純利益										30,052	30,052		30,052		30,052
自己株式の取得												△3,664	△3,664		△3,664
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）														5,649	5,649
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	-	△2	20,500	605	21,103	△3,664	17,438	5,649	23,087
当期末残高	11,014	9,664	12	9,676	2,753	6	500	600	304,080	30,935	338,876	△55,517	304,049	40,210	344,259

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

YAMAZAKI インフォメーション

～ヤマザキ「春のパンまつり」～ “白いフレンチディッシュ”プレゼント!

2026年2月1日(日)から4月30日(木)までの期間、ヤマザキ「春のパンまつり」を実施しております(北海道地区は3月1日(日)から5月31日(日)までの期間)。

対象商品に貼付された点数シール30点につき“白いフレンチディッシュ”を必ず1枚プレゼントいたします。

詳しくは、店頭のシール台紙または当社ホームページ等をご覧ください。

「春のパンまつり」キャンペーンページアドレス

<https://www.yamazakipan.co.jp/campaign/spring/>

山崎製パン X (旧ツイッター) アカウント

(アカウント名) 山崎製パン@商品情報発信中

(ページアドレス) https://x.com/yamazakipan_cp

ヤマザキ

春のパンまつり
2026

株主優待情報

株主様の日頃のご支援にお応えするため、毎年12月31日現在の株主様(ご所有株式数1,000株以上)に対し、3,000円相当の自社製品の詰合せを毎年4月にお届けいたします。



写真は本年4月にお届けする予定のもの
です。

株主優待制度は、当社株式1,000株(単元株式数100株×10単元)以上を所有されている株主様を対象としております。

ホームページのご案内

当社ホームページでは、投資家の皆様向けの「決算・IR情報」をはじめ、商品情報やおすすめのレシピなど、さまざまな情報を公開しています。



幸せな朝で始まる日には
いつも大好きなパンがあります。

<https://www.yamazakipan.co.jp/>

株式の状況 (2025年12月31日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	800,000,000株
発行済株式総数	220,282,860株
株主総数	20,856名 (前期末比2,583名減)

大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
飯島興産株式会社	18,777,895	9.5
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	17,401,300	8.8
公益財団法人飯島藤十郎記念食品科学振興財団	12,500,000	6.3
株式会社日清製粉グループ本社	11,062,343	5.5
三菱商事株式会社	9,849,655	4.9
丸紅株式会社	8,165,880	4.1
明治安田生命保険相互会社	6,501,500	3.2
株式会社日本カस्टディ銀行(信託口)	5,830,600	2.9
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	3,984,081	2.0
株式会社三井住友銀行	3,946,419	1.9

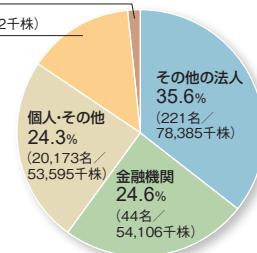
(注) 1. 当社は、自己株式を22,728,150株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は、自己株式を控除して算出しております。

株式分布状況

●所有者別

証券会社 1.4% (36名 / 3,083千株)

外国人 14.1% (382名 / 31,112千株)



●所有株数別

100株未満 0.0% (3,816名 / 47千株)

100株以上 0.9% (9,809名 / 1,990千株)

1,000株以上 5.4% (6,842名 / 11,843千株)

1万株以上 3.6% (266名 / 7,859千株)

10万株以上 6.5% (64名 / 14,290千株)



役員・従業員 (2025年12月31日現在)

役員

代表取締役社長	飯島 延浩	取締役	島田 秀男 (社外取締役)
代表取締役副社長	飯島 幹雄	取締役	畑江 敬子 (社外取締役)
専務取締役	横濱 通雄	取締役	佐藤 健司
専務取締役	会田 正久	常勤監査等委員	
専務取締役	犬塚 勇	取締役	松田 道弘 (社外取締役)
専務取締役	関根 治	常勤監査等委員	
専務取締役	吉田谷良一	取締役	齋藤 昌男 (社外取締役)
常務取締役	酒井 光政	監査等委員	
常務取締役	吉田 修康	取締役	馬場久萬男 (社外取締役)

従業員

連結	33,545名 (男性24,053名、女性9,492名)
当社	19,175名 (男性15,038名、女性4,137名)

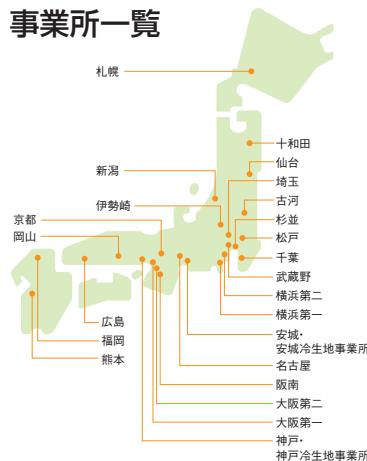


重要な子会社

会社名	資本金(百万円)	当社の議決権比率(%)	主要な事業内容
株式会社不二家	18,280	54.4	洋菓子、チョコレート、キャンディ、クッキー等の製造および販売
株式会社サンデリカ	2,000	100.0	調理パン、米飯類等の製造および販売
株式会社YKベーキングカンパニー	1,110	100.0	パン、洋菓子等の製造および販売
ヤマザキビスケット株式会社	1,600	80.0	ビスケット、スナック等の製造および販売
株式会社東ハト	2,168	95.4	ビスケット、スナック等の製造および販売
株式会社ヴィ・ド・フランス	100	100.0	ベーカリーカフェの経営
大徳食品株式会社	100	100.0	麺類の製造および販売
株式会社イケダパン	100	88.0	パン、和・洋菓子、米飯類等の製造および販売
ヴィ・ド・フランス・ヤマザキ,Inc.(アメリカ)	5,000千US\$	100.0	ベーカリー製品の製造および販売ならびにベーカリーカフェの経営
フォーリーブズ PTE.Ltd.(シンガポール)	1,250千S\$	60.0	ベーカリーの経営
株式会社ヴィ・ディー・エフ・サンロイヤル	236	100.0	パン用冷凍生地等の製造および販売ならびにインスタベーカリーの経営
タイヤマザキCo.,Ltd.(タイ)	64,000千B	85.0	ベーカリーの経営
株式会社スリーエスフーズ	480	100.0	パンの製造および販売
香港山崎麵飽有限公司(香港)	45,500千HK\$	100.0	ベーカリーの経営
株式会社サンキムラヤ	100	100.0	パン、和・洋菓子、米飯類等の製造および販売
台湾山崎股份有限公司(台湾)	40,000千NT\$	90.0	ベーカリーの経営
株式会社高知ヤマザキ	100	100.0	パン、和・洋菓子等の製造および販売
PT.ヤマザキインドネシア(インドネシア)	8,830億RP	51.0	パン、和・洋菓子等の製造および販売
株式会社ヤマザキ物流	300	100.0	物流事業
株式会社サンロジスティックス	380	100.0	物流事業
株式会社ヤマザキエンジニアリング	80	100.0	食品製造設備の設計、監理および工事の請負

- (注) 1. 大徳食品(株)は、(株)サンデリカ全額出資の子会社であり、当社の議決権比率は間接所有割合であります。
 2. タイヤマザキCo.,Ltd.における当社の議決権比率は間接所有を含む割合であります。
 3. (株)サンロジスティックスは、当社と(株)ヤマザキ物流がそれぞれ50%ずつ出資しており、当社の議決権比率は間接所有を含む割合であります。
 4. 連結子会社は、上記重要な子会社21社を含む40社であります。

事業所一覧



本社	東京都千代田区岩本町3-10-1	大阪第一工場	大阪府吹田市幸町29-1
神戸工場	千葉県松戸市南花島向町319	神戸工場	兵庫県神戸市西区高塚台6-19-1
千葉工場	千葉県千葉市美浜区新港22	大阪第二工場	大阪府松原市三宅東2-1835-5
武蔵野工場	東京都東久留米市柳蓮2-5-14	阪南工場	大阪府羽曳野市広瀬161
埼玉工場	埼玉県所沢市坂之下85	京都工場	京都府宇治市横島町目川100
杉並工場	東京都杉並区高井戸西3-2-30	名古屋工場	愛知県名古屋市中区玉池町36
横浜第一工場	神奈川県横浜市戸塚区上柏尾町15	安城工場	愛知県安城市二本木新町2-1-3
横浜第二工場	神奈川県横浜市都筑区東方町188	岡山工場	岡山県総社市井尻野800
古河工場	茨城県古河市丘里7	広島工場	広島県広島市安佐北区大林2-3-1
伊勢崎工場	群馬県伊勢崎市粕川町1801	福岡工場	福岡県古賀市古賀69
仙台工場	宮城県柴田郡柴田町槻木白幡2-9-1	熊本工場	熊本県宇城市松橋町浦川内2388
新潟工場	新潟県新潟市江南区二本木4-12-8	安城冷地事業所	愛知県安城市二本木新町2-1-3
十和田工場	青森県十和田市稲生町1-13	神戸冷地事業所	兵庫県神戸市西区高塚台6-19-1
札幌工場	北海道恵庭市恵南10-1	海外駐在員事務所	米国、パリ、台北、上海、ジャカルタ、ホーチミン

株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
期末配当の基準日	毎年12月31日
定時株主総会	毎年3月
定時株主総会の基準日	毎年12月31日
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
公 告 方 法	電子公告によるものとし、当社のホームページ (https://www.yamazakipan.co.jp/ir/koukoku/) に掲載します。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
株 式 の 上 場	東京証券取引所プライム市場

株式に関するお手続き

- 株式に関する各種お手続き(住所変更、単元未満株式の買増請求・買取請求、配当金受領方法の指定など)は、株主様が口座を開設されている証券会社にてお取扱いしております。詳しくは、お取引の証券会社にお問い合わせください。
- 株券電子化実施前に証券保管振替制度を利用されていない株主様の株式につきましては、特別口座で管理されております。特別口座に関する各種お手続き(証券会社の口座への振替(※)、住所変更、単元未満株式の買増請求・買取請求、配当金受領方法の指定など)は、三井住友信託銀行にてお取扱いいたします。

(※)証券会社の口座への振替について
特別口座では株式の売買を行うことはできません。売買を行う場合は証券会社の口座に株式を振り替えてください。
・証券会社の口座をお持ちでない株主様は、あらかじめ証券会社で口座開設をしてください。
・単元未満株式の買増請求・買取請求につきましては、特別口座のまま行うことができます。

特別口座に関する各種お手続きに必要な用紙のご請求は、上記のフリーダイヤルまたは下記のホームページで受付しております。
◎ ホームページアドレス <https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency>
- 未払配当金のお受取りにつきましては、株主名簿管理人である三井住友信託銀行にてお取扱いいたします。
- 会社法改正により、株主総会資料は原則としてインターネットを通して提供することとなりました。書面での受領を希望される株主様は、口座を開設されている証券会社または三井住友信託銀行(上記のフリーダイヤル)にお問い合わせください。